インクルーシブ教育システム構築支援データベースの充実と利用状況について

横尾　俊・横山貢一・藤本裕人
（インクルーシブ教育システム推進センター）

要旨：インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクル DB）は平成25年の開設から３年目を迎えた。これまで行ってきたシステムの改善やデータ内容の紹介とアクセス数などの分析を報告するとともに，近年望まれている活用方法や研修について，国立特別支援教育総合研究所で先行的に実施した研修内容を紹介する。

見出し語：インクルーシブ教育システム，データベース，アクセス数，合意形成，インクル DB 活用

Ⅰ．はじめに

インクルーシブ教育システム構築支援データベース（以下「インクル DB」とする）は，教育関係者や一般国民にインクルーシブ教育システム構築支援に関する情報を提供することを目的に，国立特別支援教育総合研究所の web サービスとして開設された。

インクル DB は，「「合理的配慮」実践事例データベース」（以下「実践事例データベース」とする）と「関連情報」で構成され，平成25年11月から運用が開始されている（実践事例データベースは，平成26年７月から）。

実践事例データベースには，合理的配慮や基礎的環境整備に関する実践事例が登録されており，教育現場で障害のある幼児児童生徒の合理的配慮と基礎的環境整備を考える上で参考になる取組状況を紹介している。

インクル DB は開設から３年を経て，データベースの検索方法だけでなく，教育現場でどのように活用すれば良いのかという声を多く聞くようになってきている。本稿では，インクルーシブ教育システム構築支援データベースのシステムの改善や，アクセス状況に加えて，平成28年度に，国立特別支援教育総合研究所が先行的に実施したインクル DB を活用した研修会について紹介する。

Ⅱ．実践事例データとアクセス状況

１．実践事例について

インクル DB の実践事例データベースは，障害のある個々の幼児児童生徒に対する基礎的環境整備と合理的配慮に関する実践事例を検索できるサービスである。実践事例データベースに掲載されている事例は，文部科学省が平成25年度から27年度に行った「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」で報告された事例を元にしている。この事業は，各学校の設置者及び学校が，障害のある児童生徒等に対して，その状況に応じて提供する「合理的配慮」の実践事例を蓄積すること等を目的としており，特定の学校において実践研究を行う「モデルスクール」，交流及び共同学習について実践研究を行う「モデル地域（交流及び共同学習）」，域内の教育資源の組合せによる包括的支援について実践研究を行う「モデル地域（スクールクラスター）」の三つの形態でモデル事業が行われた。

インクル DB への掲載に当たっては，以下の４点を踏まえられたものを選定し先行して掲載している。

1　共生社会の形成に向けて，当該児童生徒等が将来自立して社会参加できることを目指した取組をしていること。

2　学校内において，当該児童生徒等への合理的配慮に関する共通理解が図られた上で取り組まれていること。

３　地域・学校における基礎的環境整備が充実している,若しくはその充実を目指していること。
４　多様な学びの場を活用している，若しくはその活用を目指していること。具体的には，通常の学級・通級による指導・特別支援学級・特別支援学校それぞれの機能を有効に活用していること。

各事例は実践内容が分かりやすいように，平成24年７月に中央教育審議会初等中等教育分科会による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」で示された「基礎的環境整備」の８項目と,「合理的配慮」の３観点11項目のそれぞれについて具体的に記述されている（事例の記述項目は表１を参照）。

なお，２（３）対象児童生徒等についての合意形成に至るまでの経緯については，平成27年度分掲載データから含まれている。

表１　実践事例データベース掲載事例の項目構成

掲載項目
事例概要（実践内容の要約）
１．取組のキーワードについて
（１）対象児童生徒等の障害種
（２）対象児童生徒等の障害の程度
（３）対象児童生徒等の在籍状況等（学校種，学級種等）
（４）対象児童生徒等の学年
（５）キーワード（10 個以内）
２．対象児童生徒等について
（１）対象児童生徒等の実態
（２）対象児童生徒等の学習状況
（３）対象児童生徒等についての合意形成に至るまでの経緯（平成 27 年度の事例より掲載）
３．対象児童生徒等の学校における基礎的環境整備の状況
（１）【基礎１】ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
（２）【基礎２】専門性のある指導体制の確保
（３）【基礎３】個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
（４）【基礎４】教材の確保
（５）【基礎５】施設・設備の整備
（６）【基礎６】専門性のある教員，支援員等の人的配置
（７）【基礎７】個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
（８）【基礎８】交流及び共同学習の推進
４．対象児童生徒等への合理的配慮の実際
（１）【合理①－１－１】学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
（２）【合理①－１－２】学習内容の変更・調整
（３）【合理①－２－１】情報・コミュニケーション及び教材の配慮
（４）【合理①－２－２】学習機会や体験の確保
（５）【合理①－２－３】心理面・健康面の配慮
（６）【合理②－１】専門性のある指導体制の整備
（７）【合理②－２】幼児児童生徒，教職員，保護者，地域の理解啓発を図るための配慮
（８）【合理②－３】災害時等の支援体制の整備
（９）【合理③－１】校内環境のバリアフリー化
（10）【合理③－２】発達，障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
（11）【合理③－３】災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
５．取組の成果と課題
（１）取組の成果
（２）課題

２．実践事例データベースの掲載データ数

実践事例データベースには，平成29年３月29日現在，302件の事例が掲載されている。302件の内訳を表２に示している。学校種別等に関しては，多い順に，小学校の特別支援学級(82件)，小学校（通常の学級）(47件)，小学校（通常の学級・通級による指導）(43件)となっている。逆に少ないのは，特別支援学校（幼稚部）(１件)，特別支援学校（高等部）(７件)，特別支援学校（中学部）(11件)，中学校（通常の学級，通級指導教室）(10件)である。

また,障害種別については多い順に,知的障害(101件)，自閉症(93件)，ADHD(49件)となっている。なお，重複した障害については種別毎にカウントしているため，合計した場合302件に一致しない。

表２　掲載状況＜学校種・障害種別＞

障害種別 ＼ 学校種等	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	言語障害	自閉症	情緒障害	LD	ADHD	学校種別等合計
幼稚園	0	1	5	1	0	4	16	2	0	3	22
小学校（通常の学級）	6	3	4	3	2	6	11	10	10	12	47
小学校（通常の学級・通級による指導）	0	5	2	0	1	2	13	5	17	16	43
小学校（特別支援学級）	5	5	48	17	10	5	25	6	2	4	82
中学校（通常の学級）	0	1	2	1	1	0	10	1	5	6	17
中学校（通常の学級・通級による指導）	0	3	0	0	0	1	2	1	3	2	10
中学校（特別支援学級）	1	1	9	9	2	3	4	2	1	2	18
高等学校	1	2	2	1	1	0	6	1	1	3	15
特別支援学校（幼稚部）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特別支援学校（小学部）	2	10	15	6	4	0	3	0	0	0	29
特別支援学校（中学部）	0	0	9	4	0	0	1	0	0	1	11
特別支援学校（高等部）	1	1	5	3	0	0	2	0	0	0	7
障害種別毎計（複数カウント）	16	33	101	45	21	21	93	28	39	49	

（障害種別毎計については，複数の障害を併せ有する事例については重複してカウントしている）

３．インクル DB へのアクセス状況

インクル DB の開設からのアクセス状況を図１，図２に示した。累計アクセスを見てみると，一定の割合でアクセスされ続けていることが分かる（図１）。また，月間平均アクセス数は27,827件(1SD 14104.8)である。（実践事例データベースが実装された平成26年７月以降の月平均アクセス数は32,331件(1SD 12376.1)）。３年間の推移を見ると，夏期期間のアクセスが多くなっている（図２）。これは，学校や園において夏期休業中に行われる研修で活用されているためと推察される。

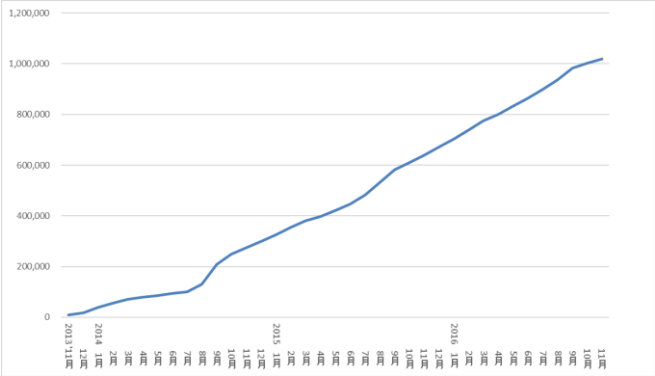

図１　インクル DB 累計アクセス状況

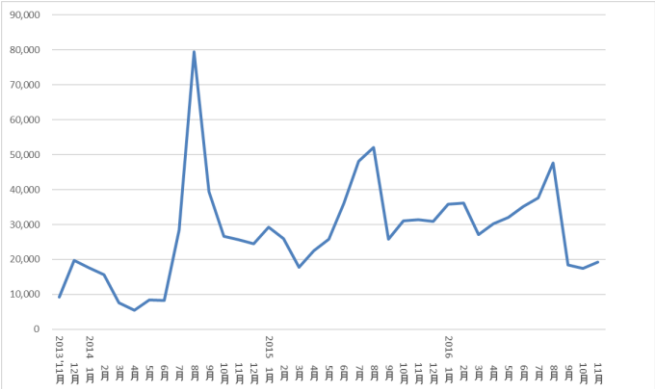

図２　インクル DB 月別アクセス状況

学校種別等毎の総ダウンロード数は，多い順に，小学校（通常の学級・通級による指導）が410,180件，小学校（特別支援学校）357,594件，小学校（通常の学級）259,257件となっており，小学校に関する事例データのダウンロード数が多い（図３）。

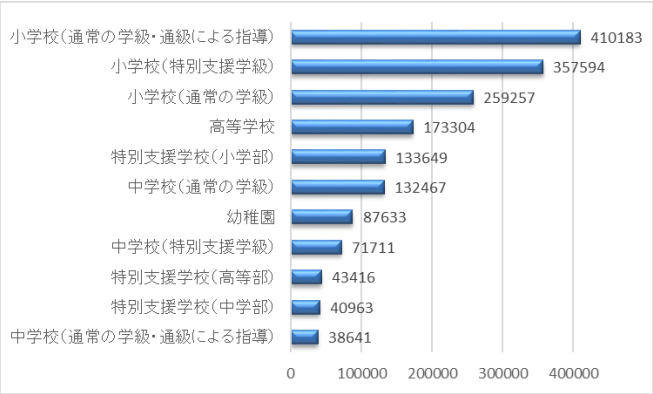

図３　学校種別等毎の総ダウンロード数

一方，学校種別等毎１件当たりのダウンロード平均数を見ると(図４),多い順に中学校(通常の学級)18,923.9（７事例），高等学校17,330.4（10事例），小学校（通常の学級）12,962.9（20事例）のようになっている。これは，中学校（通常の学級）と高等学校における活用が進んだこととあわせて，中高に関する掲載事例が少ないため，１件当たりの，ダウンロード数が多くなっているものと推察される。今後，中学校，高等学校の事例の充実が課題となる。

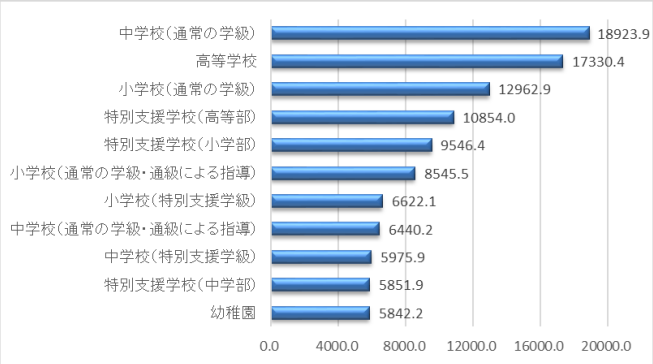

図４　学校種別等毎１件当たりのダウンロード平均数

障害種別毎の総ダウンロード数を見ると（図５），多い順に自閉症717,553件，知的障害484,509件，ADHD，（注意欠陥多動性障害）404,008件となっている。

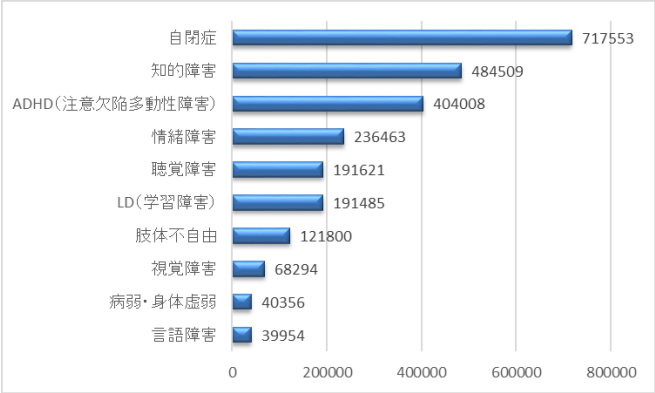

図５　障害種別毎の総ダウンロード数

Ⅲ．インクル DB の改善

平成28年の５月には，インクル DB について，利用者にとって使いやすくするための改善として，以下のような改修を行っている。改善に当たっては，所内職員にアンケート調査を行い，使い勝手等の意見を収集し可能な改善点に対して検討している。

１．概要での段落表示

開設当初は，web 上で概要の表示において，システムの仕様から段落が表示されていなかったため，一覧表示した際に読みにくいという意見があった。そのため，段落が表示できるようにシステムを改変し，表示できるようにした。

２．事例データ中での写真や図の利用

事例データが文字ばかりで，理解し難いという意見に対応し，平成27年度掲載事例の一部から，できるだけ写真や図が用いられた事例を掲載するようにし，拡大して見易く表示した。

３．用語についての解説の表示

合理的配慮や基礎的環境整備に関して，基本的な説明がなかったため一般の利用者に分かり難いとの指摘に対応し，これらの「学校教育法施行令22条３」などの用語に対して説明を表示した。

４．広報用リーフレットの掲載

インクル DB のトップページに広報用リーフレットを掲載し，各都道府県，市区町村の教育委員会が

研修会等で利用できるようにした。その際，用途に合わせて印刷できるように，カラー版とモノクロ版を掲載した。

活用の充実やアクセス数の増加にともない，実践事例データベースの検索画面での一覧表示での使い勝手などに関する要望があることから，今後もより一層使い易いシステムになるよう改善を図る必要があると考えている。

Ⅳ．インクル DB の活用について

インクル DB の主な活用として，実践事例データベースに記述された合理的配慮内容について調べたり（大西，2015），研修の中で話し合ったりする活用方法（仙北谷，2015）が示されてきている。

各県の研修会などで，インクル DB に関して説明する中でも，校内研修などでのインクル DB の活用方法についての質問があることから，操作や利用方法についてだけでなく，演習形式で研修を行えないか検討を行った。その中で，A 県 B 市の教育委員会と協働して研修会を行う機会を得て，インクル DB を活用した演習形式の研修会を先行事例として企画実施した（写真１）。

本研究所と B 市教育委員会との事前打ち合わせにより，B 市教育員会は参加者に対し合理的配慮に関する工夫点や課題について事前調査を実施し，結果を取りまとめ本研究所に送付された。その後，研修会の詳細な内容について，B 市教育委員会の希望を踏まえながら本研究所より提案，了解を得た。研修会の実施内容は表３の通りである。

表３　研修会実施内容

時　刻	内容
13:00-13:10	開会行事・諸連絡
13:10-13:50	Ｂ市立Ｃ中学校からの実践発表
13:50-14:00	休憩
14:00-15:00	(1)　講義「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」 ○　インクルーシブ教育システム構築に関する動向 ○　特別支援教育推進上の課題と今後の在り方について ・　教育課程について ・　教育支援について ・　保護者及び関係機関との連携についてなど ※　Ｂ市教育委員会が参加者に対し事前に行う，悩みや課題等に関する聞取り調査の結果により調整
15:00-15:15	休憩
15:15-15:55	(2)　演習「個々の児童生徒の障害の状態や特性を踏まえた合理的配慮の検討」 ※　障害種別に交流及び共同学習などテーマを決めて，インクル DB の事例を参考にしながら，合理的配慮の在り方についてグループ協議を行う。
15:55-16:15	(3)　インクルーシブ教育システム構築データベースの活用に関するアンケート
16:15-16:20	閉会行事・諸連絡

研修会前に実施した調査からは，インクル DB を活用したことがあると回答があったのは，全体の約２割程度であり，予想していたよりも活用が進んでいないことが明らかになった。演習においては，インクル DB について紹介し，活用の仕方を説明したところ,「このようなよいものがあるとは知らなかった。今後活用したい。」といった声が多く聞かれた。

研修後のアンケートでは表４のような感想が回答されていた。

表４　研修後アンケート感想

- どこに相談すればよいか分からず困っていた。これからはすぐにアクセスしたい。
- インクル DB があるのは知っていたが，利用に至っていなかった。使っていきたい。
- 通常の学級の担任にも教えたい。
- （調べたい内容が）すぐに，ヒットした。大いに利用したい。
- 活用の仕方が分かってよかった。
- 使用方法が分かると利用できる。（今回のような）利用方法についての講習をまずやっていただきたい。
- ほしい情報に，なかなか辿りつけなかった。
- （事例データの）文字数が多い。
- スマートフォンでは使いにくい。

A 県内においては，これまでにも各種研修会等において，何度かインクル DB の紹介を行ってきていたようだが，十分な活用には至っていなかったということが分かった。今回の研修会での情報収集を通して，今後，インクル DB の内容の充実を図ることとあわせて，現場に出向き，内容や活用の仕方について丁寧に説明を行っていくことの必要性があることが明らかとなった。

写真１　研修会の様子

Ⅴ．おわりに

インクル DB の存在に関しては，各都道府県区市町村教育委員会などの協力もあり，教育現場での認知が進んできており，利用数が増加している状況にある。

今後も掲載事例の追加を予定しているが，教育現場からは量的な増加に加えて，参考となる検索用語の利便性が図れる情報や，教育現場での活用する際に参考となる資料や方法の提示など活用の質の向上を図る取組が求められている。今後はこれらの対応も検討したい。

引用文献

中央教育審議会初等中等教育分科会（2014）．共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）．

大西孝志（2015）．小・中学校における合理的配慮データベースの活用－聴覚に障害がある子供の合理的配慮の検討－．季刊　特別支援教育，57，12-15.

仙北谷逸生（2015）．教育委員会主催の研修会等へのインクル DB の効果的な利用状況．季刊　特別支援教育，57，36-39.